

～水稲情報 NO. 1～

R8. 6. 10

JA 加美よつば

令和8年産米の稲作は、色麻区域においては4月5日頃、加美区域においては4月12日頃が播種盛期となりました。田植え盛期（50%田植えが終了した日）は色麻区域においては5月6日頃で、加美区域においては5月14日頃となり、25日頃にはほぼ終期（90%）となりました。田植え後の強風や、高温による表層剥離、アオミドロの発生が多くみられ、影響を受けた圃場では初期の生育が停滞したと推測されます。今後の水管理、雑草対策、病虫害防除を徹底し、『高品質米・良食味米』づくりに努めましょう。

1. 生育状況（生育調査結果 加美よつば管内ひとめぼれ平均）

6月1日現在の生育状況は、草丈で24.8cm（平年対比105.0%）、莖数で6.5本（m²当たり94.0本、平年対比92.7%）、葉数は4.9枚で平年並みになっております。強風の影響により植え傷みが見られるほ場や、表層剥離の影響で分げつが抑制されている圃場が見受けられます。

2. 水管理（早期莖数確保）

早期に目標本数（概ね1株当たり20本程度）を確保するため、2～3cm程度の浅水管理（低温の心配がある場合は5～6cmの深水）を励行し、分げつを促進させましょう。

- ※中干し ○亀裂が入り、軽く足跡がつく程度まで行う。
- 溝切を行い、中干しの効果を高める。
- 穂づくりに入る前（7月10日頃）には中干しを終了する。
- 中干しは田面全体に小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度にしましょう。

※低温時は深水管理（5～6cmの深水）で稲の生育保護も必要です。



3. 葉いもち病防除（箱処理剤を使用していない場合）

葉いもち病予防のため主食用米以外（飼料用米・WCS用稲）にもオリゼメート粒剤を散布しましょう。

4. 雑草対策

●今年も気温の高い日が予想されます。去年は、気温が高い影響で後発のヒエが多く、カメ虫の被害が多く発生いたしましたのでご注意ください

※ヒエ・シズイ・ホタルイはカメムシの発生源です！残草のないようにしましょう。

◇初期剤＋中期剤または、初中期一発剤を散布したが（散布後10日以上経過するのに・・・）

○ホタルイ、アゼナ類、クログワイ等が発生している場合はこちら！！

★バサグラン粒剤 @ 3,247円（税込）
3～4kg/10a 田植後15日～50日まで
（晴天が、2日以上続く日を選んで散布して下さい。）

※バサグラン粒剤は、1～2cmの浅水で散布、3日間以上入水しない。

Q：雨が降る前に散布した場合は？
A：雨により水中濃度が薄まり効果が不安定になる恐れがありますので散布を控えて下さい。
（※散布後6時間は必要です）

○湛水状態で使用できる中後期除草剤・ヒエ、ホタルイ、クログワイ、オモダカ等が発生している場合はこちら！！

★ツイゲキ1キロ粒剤	@ 3,999 (税込)	1kg / 10a
★ツイゲキ豆つぶ250	@ 4,160 (税込)	250g / 10a
田植後14日～ノビエ4葉期まで (但し、収穫60日前まで)		

★グパード1キロ粒剤	@ 3,743円 (税込)	1kg / 10a
★グパードジャンボ剤	@ 3,893円 (税込)	400g / 10a
田植後14日～ノビエ4葉期まで (但し、収穫60日前まで)		

※両剤共にマニュアル米で使用できます。(特別栽培米・生活クラブ提携米には使用できません。)

※ピラクロン・アップレZ・カラットの中から2剤使用した場合使用不可能となります。

※グパードジャンボ剤については昨年並みの在庫はございますが
在庫切れの際はご了承ください。

5. 水稻の高温障害対策

●気温が高い日が続くと白未熟粒が多く発生するのでご注意を
水稻へのケイ酸施用効果

- ・ 登熟が高まり、粒張り・乳白粒の軽減・食味向上に役立ちます。
- ・ 活力ある根が張り、茎葉が硬く倒伏に強くなります。
- ・ ケイ酸施用により、ケイ化細胞が形成され、いもち病やごま葉枯病にかかりにくくなります。

使用肥料	効果	散布時期	散布量
KSK28	倒伏軽減、登熟向上、高温障害対策(乳白)	中干し後の入水時	1.4kg/10a



@2,260円(税込)

使用肥料	効果	散布時期	散布量
けい酸加里	倒伏軽減、登熟向上、食味向上	出穂前45～35日	20～40kg/10a



@3,210円(税込)